

# 令和4年度 小金井市教育委員会研究奨励校 研究発表会

## 研究主題 教科の特性を生かした授業づくり ～ ICT の活用を通して～

令和5年2月3日(金)



地図とタブレットを活用しながらのグループ対話



3秒後のタイムシフト再生で自分の跳び方を確認

14:10 14:25 14:30 14:50 15:30 15:40 16:25 16:30

|      |                        |                |              |                           |   |            |
|------|------------------------|----------------|--------------|---------------------------|---|------------|
| 視聴準備 | 挨拶<br>小金井市教育委員会<br>教育長 | 授業公開<br>(録画映像) | 研究発表<br>本校教員 | 指導講評<br>小金井市教育委員会<br>指導室長 | トークセッション<br>「授業づくりとICT」<br>NPO法人授業づくりネットワーク理事長<br>石川 晋 先生<br>本校教員 | 謝辞<br>本校校長 |
|------|------------------------|----------------|--------------|---------------------------|---|------------|

### <教育長あいさつ>

小金井第三小学校は、令和4年度小金井市教育委員会研究奨励校として、研究を進めてこられました。この度、その成果をまとめられ、発表の運びとなりましたことを心よりお慶び申し上げます。本校では『教科の特性を生かした授業づくり～ICTの活用を通して～』を研究主題として、教科の目標を達成するために、学習者用端末などのICTを効果的に活用した授業改善を進めて参りました。これまで研究を牽引された 増田 亮 校長先生をはじめ、本校教職員の皆様に心より敬意を表するとともに、熱心にご指導くださいましたNPO法人授業づくりネットワーク理事長 石川 晋 先生及びこれまで本校の教育活動や研究活動に対してご支援を賜りました保護者や地域の皆様方に心から感謝を申し上げ、挨拶といたします。

小金井市教育委員会教育長 大熊 雅士

### <校長あいさつ>

令和4年度の1年間、小金井市教育委員会研究奨励校としての指定を受け、実践を重ねてまいりました。ICTは、使うこと自体が目的ではないことはもちろん、万能でもありません。あくまで授業を支えるための道具の一つです。その道具をどのように活用すれば、各教科の特性を生かした学習活動ができるのか、ICTを効果的に活用した話し合い活動はどのようにあるべきなのか、どのアプリケーションを使うと効果的なのか、4つの教科チームに分かれて熱く議論を重ねた毎日でした。本日研究発表会を迎え、これまでの取組の成果の一端を発表させていただきます。忌憚のないご意見をいただけると幸いです。

何より子供たちが抵抗なく自然にタブレットを学習道具として使う姿が日常的に見られるようになったことが一番の研究成果だと考えています。研究を進めるにあたっては、多くの講師の先生方のご指導をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

校長 増田 亮



小金井市立小金井第三小学校

184-0002 東京都小金井市梶野町 5-7-1  
TEL 042-383-1143 FAX 042-382-2043  
<https://dai3-es.koganei.ed.jp>

## 国語科チーム



### <教科の特性から目指す資質・能力>

対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言語を正確に理解し適切に表現できる。また、言葉がもつよさを認識し、論理的に思考することや豊かに想像することができる。

### <ICTの活用>

- ・個別最適化（作文スライド）
- ・言葉の働きを色別に可視化
- ・ICTを活用した言葉集め
- ・デジタル教科書のマイ黒板による焦点化
- ・意見の交流や考えの共有

### <授業について>

児童が自分の思いや考えを言葉で適切に表現できるよう、様々な表現の仕方を児童同士で共有し合える環境や時間を設定した。文学教材の学習では、読みの視点を明確にし、言葉に着目しながら登場人物の行動や気持ちを捉えられるような手立てを考えた。

## 算数科チーム

### <教科の特性から目指す資質・能力>

数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、数学のよさに気づき、算数と日常生活の関連についての理解を深め、主体的に学習に生かそうとすることができる。

### <ICTの活用>

- ・自分の考えを可視化（数直線等の活用）
- ・意見の交流や考えの共有
- ・児童が自由に操作できる素材の提示
- ・数学的な見方・考え方の抽出

### <授業について>

図を活用することで考えが深まるよう、紙ベースのものとデータベースの図を児童に選択させるように工夫した。自分の考えを可視化し、友達に伝えることで考えを共有することにつながった。



## 社会科チーム



### <教科の特性から目指す資質・能力>

位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して社会的事象を見出し、比較・分類したり総合したりして、自分たちの生活と関連付けて考察することができる。

### <ICTの活用>

- ・資料提示の活用（比較、説明、読み取り）
- ・拡大縮小機能を活用した深い読み取り
- ・様々な立場による視点や考えの違いを可視化
- ・意見の交流や考えの共有

### <授業について>

児童に興味・関心をもたせ、児童が社会的事象を自分のこととして考え、表現できるようにするために、発達段階に応じて自分たちの未来を考える時間を設定した。これからの地域社会の課題について考える時間を確保したり、選択・判断を通して、社会的事象を身近に考えさせたりする機会にした。

## 体育科チーム

### <教科の特性から目指す資質・能力>

児童の運動・健康に対する興味・関心を引き出し、運動の本質的な楽しさや喜びを味わわせることによって、豊かなスポーツライフの基礎を培うことができる。また系統的に学習を積み重ねることができる。

### <ICTの活用>

- ・Google Formsを用いた悩みに関するアンケート
- ・不安や悩みへの対処法の意見共有
- ・跳び箱運動の技能ポイント学習
- ・跳び箱運動の動画撮影

### <授業について>

児童の興味・関心の傾向や能力等を明確にし、実態に応じた学習のねらいを立て、どのような児童も積極的に取り組めるような手立てを工夫するように努めた。



### 教育課題

- 小金井市GIGAスクール構想の推進
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体化
- 主体的・対話的で深い学びの実現

### 小金井市教育委員会教育目標及び学校教育目標

小金井市教育委員会教育目標（研究に関する項目を抜粋）  
自ら学び協働して問題を解決していく、創造力豊かな人

小金井第三小学校教育目標（○は重点目標）

- 考える子ども            働く子ども
- 仲良くする子ども      体をきたえる子ども

### 教師の願い

各教科等で学んだことや知識をさらに深めるためにICTを効果的に活用し、考えを深めたり広げたりできるようにしてほしい

### 研究主題

教科の特性を生かした授業づくり  
～ICTの活用を通して～

### 児童の実態

情報収集はできるが、その後知り得た知識を発展的に活用し、何ができるかまで深く考える力（活用能力）が弱い

### ICTを活用して育成を目指す

- 必要な情報を収集、整理、分析、発信する力
- 情報機器を適切かつ有効に活用できる力
- 情報を安全に活用する力
- 目的に応じた活用方法を考える力

### 各チームが目指す児童像とICTの活用場面

#### 算数科チーム

・数学のよさに気付くために、日常と算数を関連付けて考えられる児童

- ・図の操作（個別）
- ・考えの共有と可視化（一斉・協働）
- ・AIドリル予習・復習（個別）

#### 国語科チーム(書く)

・自分の考えを形成し、言葉による表現を楽しむ児童

- ・考えの共有（個別・協働）
- ・AIドリル予習・復習（個別）

#### 国語科チーム(読む)

・言葉に着目し、文章の深い意味を考えられる児童  
・学んだことを自身の読書活動につなげられる児童

- ・考えの共有（個別・協働）
- ・語句の意味調べ（個別）
- ・資料提示（一斉）

#### 体育科チーム

・健康の保持増進や運動の楽しさに関心・意欲をもつ児童

- ・資料提示（一斉）
- ・考えの共有（個別・協働）
- ・映像確認（個別・協働）

#### 社会科チーム

・社会的現象を様々な視点から考え学んだことを自分事としてとらえられる児童

- ・考えの共有（協働）
- ・資料提示（一斉）
- ・調べ学習（個別）
- ・発表（個別）

### ICTを活用した授業を推進するための組織的な取り組み

- 事前授業検討会
- 学習指導要領に関する学習会
- 模擬授業検討会
- 授業づくりに関連する書籍の読書会
- ICT活用研修会
- 生活指導部と連携した情報モラル教育の推進
- ICT活用推進委員会
- 指導案や教材、資料等の電子データ化

# 三小の取組から

## <チームごとの授業検討会>



チームごとに指導案検討などの話し合いを行い、事前授業を行った。ICTを活用し、教科の特性を生かすには、どの場面で有効か、どのコンテンツが有効かなどを検討した。模擬授業や発問を考えることにも取組み、目指す児童像にせまる授業づくりについて検討を重ねた。

## <研究全体会>



研究授業後には、Google Formsのアンケート機能を用いて授業の視点に対するアンケートをその場でまとめた。その結果を踏まえながら、ホワイトボードを用いて、協議し、内容を報告し合った。考えを可視化することで、意見のつながりや違いなどを発見することができた。

## <オンライン施設見学>



施設職員のご協力をいただき、日野市・国分寺市・小金井市で設置した可燃ごみ処置施設（浅川清流環境組合）をオンラインで施設見学をした。リアルタイムで質問に答えてくれるなど、双方向でやりとりができた。1単位時間で施設の概要を知ることができ、時間短縮にもつながった。

## <他地区の小学校との交流授業>



ビデオ会議システムを活用して日野市立日野第四小学校の教室と本校の教室とをつなぎ、交流授業を行った。ゴミを減らすために自分たちができることは何かについての意見を交換した。

制作したプレゼンテーション資料を見せ合いながら、お互いに質疑応答を行った。

## <示範授業>



東京学芸大学附属小金井小学校  
加固希支男先生

「タブレットを通して自分の考えを共有する算数授業のつくり方」をテーマに4年生を対象に示範授業をしていただいた。「ドットの数を考えよう」という学習では、チャット機能を活用して意見交流を行い、様々な考えに触れることができた。

## <ワークショップ>



プレイキッズシアター  
むらまつひろこ先生

授業で活用できる演劇的手法をワークショップ方式で体験した。役になってインタビューに答えるホットシーティングや役を演じるロールプレイなどの活動を通して、文章をより深く理解することを実感できた。

## <その他>

- 毎月のテーマを決め、朝の会で情報モラルにかかわる内容について学年の発達段階に応じた指導を行った。
- ICTを活用し、欠席した児童へ翌日の学習予定等の連絡をする取組や不登校児童と担任とがつながるツールとする取組を進めた。
- 欠席連絡や朝の検温結果の報告を「デジタル出欠席・検温カード」で行うようにした。
- 学校評価などの保護者アンケートをGoogle Formsを利用して実施した。
- 学校だより「けやき」を全校メールで配信するようにした。

## <研究のまとめ>

### できるようになったこと

- ・教科それぞれの特徴を捉えながら、場面や用途に応じたICTの活用方法を整理できるようになった。
- ・共有場面でICTを活用して児童相互の考えを取り入れた授業の展開が日常化した。
- ・一度作成した教材を学年間または学年を超えて活用することが容易になった。
- ・教材提示の方法を焦点化する場面、共有化する場面、効率化する場面などに整理・分類して提示することが可能になった。
- ・学びの履歴（成長の過程）を残しておくことができ、後で振り返るのが容易になった。
- ・学習の経過や結果を共有したり比較したりしながら、次の学びにつなげられるようになった。

### これからやっていきたいこと

- ・学校で学んだ事を家庭でも生かせるよう、ICTの活用方法を考え家庭との連携を進めていく。
- ・年間計画を整理し、今回実践した授業以外でも活用方法が適用できる場面を考える。
- ・個別最適な学びの実現のために、児童の特性を生かした活用方法を模索していく。
- ・対話を通した授業を実現できるように有効なICTの活用方法を模索していく。

## <授業実践>

|        |      |                                      |
|--------|------|--------------------------------------|
| 5月31日  | 6年社会 | 「小金井市のにぎわいをめざして」授業者：倉林 宏樹            |
| 6月29日  | 2年算数 | 「時計を生活に生かそう」授業者：永尾 智美                |
| 7月15日  | 5年体育 | 「心の健康」授業者：平木 正行                      |
| 8月30日  | 4年算数 | 「ドットの数を考えよう」授業者：加固 希支男 先生（講師による示範授業） |
| 10月 7日 | 3年国語 | 「修飾語を使って書こう」授業者：平塚 知美                |
| 10月19日 | 6年体育 | 「跳び箱運動」授業者：中澤 卓也                     |
| 11月 2日 | 4年社会 | 「武蔵野台地をききんから救え～川崎平右衛門の活躍～」授業者：奥村 真絵  |
| 11月24日 | 4年国語 | 「ごんぎつね」授業者：大島 絢子                     |
| 12月12日 | 5年算数 | 「単位量あたりの大きさ」授業者：立花 黎                 |
| 1月17日  | 1年算数 | 「おおきいかず」授業者：浦谷 皓頌                    |

## <ご指導いただいた講師の先生方>

|                     |             |
|---------------------|-------------|
| NPO法人授業づくりネットワーク理事長 | 石川 晋 先生     |
| 白百合女子大学教授           | 中田 正弘 先生    |
| 東京学芸大学附属小金井小学校教諭    | 加固 希支男 先生   |
| 調布市立上ノ原小学校主任教諭      | 土屋 功 先生     |
| プレイキッズシアター          | むらまつ ひろこ 先生 |
| 小金井市教育委員会指導主事       | 向井 隆一郎 先生   |



開校70周年記念キャラクター  
さくらぐま 花さかぐま

## <研究に携わった教職員> ◎研究主任 ○研究推進委員

|                |               |          |           |           |             |
|----------------|---------------|----------|-----------|-----------|-------------|
| 校長 増田 亮        | 副校長 富永 暢久     |          |           |           |             |
| 第1学年担任 ○中原 希美  | 浦谷 皓頌         | 倭 康子     | 関谷 真弓     | 後藤 朋子     |             |
| 第2学年担任 永尾 智美   | 篠崎 優          | ○榎本 智也   | 佐藤 恵利子    |           |             |
| 第3学年担任 ○村瀬 訓史  | 和智 直人         | 中村 優子    | 杉浦 公俊     | 平塚 知美     |             |
| 第4学年担任 武田 宇史   | ○大島 絢子        | 熊 義史     | 奥村 真絵     |           |             |
| 第5学年担任 吉永 克巳   | 大山 百合子        | ○立花 黎    | 平木 正行     |           |             |
| 第6学年担任 ○倉林 宏樹  | 奥井 里衣子        | 中澤 卓也    | ○志田 満瑠    |           |             |
| 専科教員 ◎島津 智子    | ○高木 響子        | ○笠井 哲    | 庄司 美帆     | 前田 陸      | 小中 愛子 川岸 由佳 |
| 時間講師 横田 優子     | 青木 睦子         | 今野 容子    | 萩野 智子     | 小林 真子     | 石渡 聡子       |
| 大空教室 中田 秀明     | 渡土 由子         | 柴田 奈津子   | 吉井 輝      | 及川 幸子     |             |
| ALT ビビアン・ヒラナミ  | SC 田中美早       | 三ツ矢 律子   | SSW 神山 房子 | SSS 浅野 容子 |             |
| 副校長補佐 痴山 弘子    | 支援員/補助員 川村 恵美 | 上野 孝子    |           |           |             |
| 用務 加藤 和生 秋元 幸一 | 栄養士 櫻井 美幸     | 事務 草野 明美 | 榎本 愛絵     | 近内 良江     |             |

# 第6学年社会科学学習指導案

令和4年5月31日(火)  
小金井市立小金井第三小学校  
第6学年1組 40名  
授業者 倉林 宏樹

1 小単元名「人々の願いを実現する政治」小金井市のにぎわいをめざして(6時間)

## 2 小単元の目標

我が国の政治の働きについて、政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、見学・調査したり各種の資料で調べたりしてまとめ、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現することを通して、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

## 3 観点別評価規準

| 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|--|---|
| ①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて見学・調査したり各種の資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、国や地方公共団体の政治の取組を理解している。<br>②調べたことを図表や文などにまとめ、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解している。 | ①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、問いを見出し、国や地方公共団体の政治の取組について考え、表現している。<br>②国や地方公共団体の政治の取組と国民生活に関連付けて、国民生活における政治の働きを考え、適切に表現している。 | ①我が国の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。<br>②学習したことを基に、政治への関わり方や社会の担い手としての意識などについて、考えようとしている。 |

## 4 単元について

本小単元は、内容(1)の我が国の政治の働きについての学習中の「国や地方公共団体の政治の取組」に関する内容となる。ここでは、社会保障、自然災害からの復旧や復興、地域の開発や活性化などの取り組みから選択して取り上げることになっているが、本小単元は、小金井市の産業振興の具体的な事例を扱っている。小金井市の市民のアンケート調査から、市政に求められる項目について考え、小金井市が様々な分野でまちを活性化させようとしていることについて触れ、市役所が住民の意見を取り上げながら、政策を決定し、様々な人々と協力して政策を行っていることを通して、国民生活における政治の働きを理解する。

## 5 チームの手立て

チームの目指す児童像を「社会的事象を様々な視点から考え、学んだことを自分のこととして捉えられる児童」と設定した。本単元では、政治が自分たちの住んでいる小金井市でも行われていることや、自分の住んでいる地域の発展について様々な分野で尽力している人々がいること、地方公共団体や地域、国が協力しながら政策を進めていることなどをつかませたい。また、税金が国や地方公共団体による対策や事業に使われ、国民生活の向上と安定のために重要な役割を果たしていることも理解させたい。また、単元のまとめでは、「小金井市マスタープラン」を取り上げ、小金井市の20年後について話し合う活動を設定する。未来の小金井市について様々な人の立場を考え、交流する活動を通して、学んだことを自分のこととして捉えられるようにする。

## 6 ICTの活用について

社会科の学習では主に「スクールタクト」を活用して、資料の提示、意見の交流を行っている。また、調べたことを文章だけでなく、図や写真を貼り付け表現させることでより分かりやすい内容になっている。本単元ではGoogleのアプリケーションである「Jam board」を活用し、一人一人の考えを共有できるようにし、話し合いを活性化させる。

7 小単元の指導計画

| 過程   | ねらい  | ○主な学習活動<br>・予想される子どもの反応  | 教師の指導・支援<br>(◇資料 ☆ICT)  |
|--|--|--|---|
| つかむ  | ①小金井市民のアンケート調査の結果や資料から、地方公共団体の政治の働きについて学習問題を考える。                   | <p>○<u>小金井市について深く知り、学習問題を考えよう。</u></p> <p>○資料を見ながら学習問題を考える。考える。<br/>・小金井市はどんな取り組みをしているか気になるな。</p>                                    | <p>◇小金井市民のアンケート調査<br/>◇小金井市産業振興プラン<br/>◇産業振興条令<br/>☆「Google Slides」<br/>・市民の願いに注目していることを取り上げる。</p>    |
| <p>小金井市のまちづくりは、市民の願いをどのようにして実現させているのだろう。</p> |  |  |   |
| 調べる  | ②予想をもとに小金井市のまちづくりについての学習計画を考え、学習の見通しをもつことができる。                     | <p>○<u>予想をもとに小金井市のまちづくりについての学習計画を考えよう。</u></p> <p>○補助資料を見ながら、学習問題の予想と学習計画を考える。<br/>・だれがどんなことをしているのか気になるな。<br/>・市役所の人に取り組んでいるのかな。</p> | <p>◇市議会の写真<br/>◇3市協働プランの写真<br/>☆「Jam board」<br/>・学習問題の予想を考える際には、誰が、どのように、何をしているのかの視点を明確にさせる。</p>      |
|  | ③小金井市のまちなぎわいづくりについて調べ、小金井市が様々な人々と協力して取り組みを進めていることに気付くことができる。       | <p>○<u>小金井市のまちなぎわいづくりについて調べよう。</u></p> <p>○資料を読み取り、小金井市の取り組みについて調べる。<br/>・農業分野でも取り組みをしていた。<br/>・様々な人達が関わっている。</p>                    | <p>◇小金井市のまちなぎわいづくり設計図<br/>☆「スクールタクト」<br/>・資料を読み取らせる際には、たくさんの団体や地域の人々が関わっていることを確認する。</p>               |
|  | ④市議会のはたらきや税金の役割について調べ、様々な取り組みには税金が使われ、様々な取り決めから政治が行われていることを理解している。 | <p>○<u>小金井市の市議会の働きについて調べよう。</u></p> <p>○市議会の人々がどのように政策に関わっているのかを調べる。<br/>・市議会の人々が話し合いを重ねていることが分かった。<br/>・色々な場面で政治が進められていることが分かる。</p> | <p>◇小金井市市議会ホームページ<br/>◇小金井市歳入内訳<br/>◇補助金額<br/>☆「スクールタクト」<br/>・市税が使われていることも資料から読み取れるようにする。</p>         |
| まとめる   | ⑤学習問題のまとめを考え、小金井市が市民の願いをかなえる政治を多くの人々と協力しながら進めていることを理解している。         | <p>○<u>学習問題の答えについて考えよう。</u></p> <p>○学習問題のまとめをスクールタクトでまとめる。<br/>・様々な人々が小金井市のまちを活性化させるために取り組んでいることが分かった。</p>                           | <p>◇今まで取り扱った資料<br/>☆「スクールタクト」<br/>・今までの学習のまとめや調べたことを振り返られるようにする。</p>                                  |
| いかす  | ⑥いろいろな人の立場から未来の小金井市について考え、政治を自分ごととして捉えることができるようにする。(本時)            | <p>○<u>様々な人の立場を考え、20年後の小金井市について考えよう</u></p> <p>○未来の小金井市について「残していきたいもの」「変えていきたいもの」について考え、小金井市宣言を作る。</p>                               | <p>◇小金井市マスタープラン<br/>☆「Jam board」<br/>・事前に項目について自分なりに考えておき、意見交流では自分の意見を明確にさせておく。話し合いから、小金井市宣言を考える。</p> |



## 8 本時の学習

### (1) ねらい

いろいろな人の立場から未来の小金井市について考え、政治を自分ごととして捉えることができるようになる。

### (2) 展開 (6 / 6)

|   | ○主な学習活動 ・予想される子どもの反応   | ※留意点 ◇資料 ★評価 ☆ICT  |
|---|--|--|
| 導入  | <p>○学習したことを振り返り、小金井市ではまちなぎわいづくりをどのように行っているか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートをとって市民の願いをかなえる取り組みをしていた。</li> <li>・市議会などでたくさん話し合いをしていた。</li> </ul>   | <p>※政治が人々の願いを実現させるために、たくさんの人々が協力し、話し合いを重ねながら取り組みを行っていることを振り返ることができるようにする。</p>  |
| <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     様々な人の立場を考え、20年後の小金井市について考えよう。                 </div> |  |  |
| 展開  | <p>○小金井市の地図を見ながら、「地域に残していきたい大切な物」「よりよい市にするために変えていきたい物」について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小金井市はとても緑が多いから、自然はしっかりと残していくべきだと思う。</li> <li>・古くなっている道路を工事していくことが大事だと思う。</li> <li>・町の人が休める場所があった方がいいと思う。</li> <li>・お年寄りが安心して移動できる段差を少なくした階段をもっと増やした方がいいと思う。</li> <li>・買い物をするお店を作った方がいいと思う。おしゃれな服が買えるような店も必要だと思う。</li> </ul> <p>○話し合ったことをもとに、小金井市宣言を考え、どんな小金井市になってほしいかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然も残したいけど、にぎわいも増やしたい。</li> <li>・安全な道路やまちに住みたい。</li> <li>・歴史も文化も残していきたい。</li> </ul> <p>○小金井市宣言を自分達の話した内容と共いくつかのグループが発表する。</p> | <p>※「子供」「学生」「高齢者」「働いている人」などいろいろな人の立場から考えさせる。</p> <p>◇小金井市の地図</p> <p>☆「Jam board」</p> <p>※それぞれの立場の考えについて事前に考えておき、考えがすぐに交流できるようにする。</p> <p>※それぞれの意見について多くの立場から話し合い、考えをより良くするように働きかける。</p> <p>※小金井市宣言を考える際は、話し合った内容の最も大切だと思う内容を2つ選び、どんな小金井市になってほしいかという願いを言葉にするように支援する。</p> <p>※「20年後の小金井市は、～なまち」という話型を示し、考えやすいようにする。</p> <p>※なぜその宣言にしたのかを理由をはっきりさせて、発表させるようにする。</p> |
| 終末  | <p>○願いを実現する政治にはどんなことが必要なのか、振り返りをスクールタクトに記入する。</p>  | <p>☆「スクールタクト」</p> <p>★国や地方公共団体の政治の取組と国民生活を関連付けて、国民生活における政治の働きを考え、未来の小金井市の姿について適切に表現している。</p>   |

#### 授業参観の視点

- ① 学習を通して、児童が様々な人の立場について考えを深められていたか。
- ② 児童が政治は自分たちの将来に関わっていることに気づき、自分ごととして学習を捉えていたか。
- ③ ICTの活用は、児童の話し合い活動に効果的だったか。

# 第2学年算数学習指導案

令和4年6月29日(水) 5校時  
 小金井市立小金井第三小学校  
 第2学年1組 33名  
 授業者 永尾 智美

1 単元名 時こくと時間「時計を生活に生かそう」(東京書籍)(3時間)

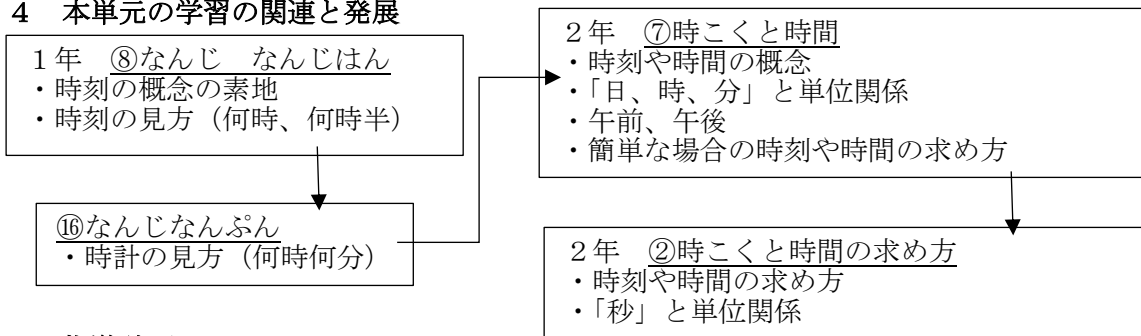
## 2 単元の見込み

時刻と時間の概念、日、時、分の単位やそれらの関係を理解し、数学的表現を適切に用いて時刻や時間の求め方を考える力を養うとともに、それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

## 3 観点別評価規準

| 知識・技能   | 思考・判断・表現                              | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|---------------------------------------|---|
| 時刻と時間の区別、及び日、時、分の単位やそれらの関係を理解し、時刻や時間を求めたり、表したりすることができる。 | 時間の単位に注目し、図などを用いて時刻と時間の求め方を考え、説明している。 | 時刻や時間に関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。 |

## 4 本単元の学習の関連と発展



## 5 指導計画

| 時 | 目標   | 学習活動  | おもな評価規準   |
|---|--|---|---|
| 1 | ○「時刻」「時間」の意味や、時、分を理解する。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●図を見て、「時刻」と「時間」の意味の違いを考える。</li> <li>●1時間=60分であることを知る。</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時刻と時間の意味や1時間=60分の関係を理解している。(知・技)</li> </ul>           |
| 2 | ○「午前」「午後」の意味や、日、時の関係を理解する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●絵を見て、「午前」と「午後」の意味を知る。</li> <li>●午前・午後ともに12時間あることから、1日=24時間であることをおさえる。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時刻や時間に関心をもち、日常生活で生かそうとしている。(態度)</li> </ul>            |
| 3 | ○担任の睡眠時間について、寝た時刻が8時、起きた時刻が9時という情報をもとに、言葉と数直線、時計を対応させながら表現し、考えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「8時から9時までの睡眠時間」という情報から、何時間睡眠時間があるのか考える。</li> <li>●問題に対し、模型時計・数直線・式等を活用し、問題に取り組む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時計盤や数直線を用いて時刻と時間の求め方を考え、説明しようとしている。(思・判・表)</li> </ul> |

## 6 指導観

子供たちにとって、時刻や時間は身近なものではあるが、一方でなかなか意識をしないものである。学校の中では、基本的にはチャイムによって時間が区切られていると子供たちは感じており、「あまり時計を見ない」という子が多い。しかし、実際には、時刻と時間は自分の生活とは切っても切り離せないものである。担任の寝た時刻、起きた時刻、睡眠時間から、「これはどういうことだろう?」「この時刻は?睡眠時間は?」と考えていくことで、「では、自分の身近な人は?」「自分は?」と、自分事として考えられるような本時の学習活動とした。

また、「時こくと時間」の単元で、模型時計だけではなく数直線に表しながら考えることができるようにするために、「長さのたんい」「3けたの数」の単元においても数直線を多く取り入れてきている。数直線の幅で考えたり表したりすることが大切だということから、数直線を活用し、子供たちに慣れさせてきた。

## 7 チームの手立て

児童のつまずきの原因をとらえ、それに応じたていねいな指導を行っていく必要がある。また、算数の学習の時間だけでなく、日常生活の中で時刻や時間を意識した生活を送らせ、それらに親しませていくことも重要であるとする。本時では、模型時計、数直線、式の中から、子供たちが自分たちの考えを深めたり、表したりできる方法を選ぶことができる姿を目指し、本時に至るまでの積み重ねを大切にしてきた。

## 8 ICTの活用について

2年生でも、数直線を手書きで書ける。だが、5月末に「長さのたんい」でものさしの使い方を習ったばかりの段階である今、ていねいに数直線を書こうとすると、とても時間がかかる。数直線を手書きすることによって、子供たちの思考が妨げられたり、時間が足りなくなったりすることがないように、本時では、あらかじめ数直線のもとになるものを用意した。これを移動したり、つなげたりすることで、子供たちが自分の考えを表すことができる補助の役割を果たすことを期待して、スクールタクトを活用することとした。

また、自分の考えをグループやクラスの中で見合い、「この式は、どんな数直線になるのだろうか?」というように子供たち同士で共有させるために、ICTを活用する。

## 9 本時の学習（3／3）

### (1) ねらい

担任の睡眠時間について、寝た時刻が8時、起きた時刻が9時という情報をもとに、言葉と数直線、時計を対応させながら表現し、考えることができる。

### (2) 展開

|    | 学習活動 ○主な発問や指示 ・予想される子供の反応                                  | ※留意点 ★評価 ☆ICT   |
|----|--|---|
| 導入 | 1. 既習を振り返り、本時の進め方について知る。<br>○みなさんに、この前とったアンケートの結果をお知らせします。 | ※前時までには、児童の就寝時刻と起床時刻を調べておくことで、日常生活での時間の使い方を振り返ることができるようにしておく。 |

|    |   |  |
|----|---|--|
|    | <p>○この前のお休みの日、私は8時に寝て、9時に起きました。これは、どういうことだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝てから起きるまでが、とても短い。</li> <li>・1時間しか寝ていない。永尾先生ならあり得る。</li> <li>・1時間しか寝ていないのではなくて、もっと長く寝ているのでは。13時間寝たと思う。</li> </ul> <p>○今日は、永尾先生の寝ていた時間はどれぐらいなのかということ、友達と話していこう。</p>   | <p>※学校で身近な存在である担任の睡眠時間が、この日はどれぐらいなのかというところから、子供たちのつづやきを出させていく。</p> <p>※1時間なのか、13時間なのかを考えさせる。</p>   |
| 展開 | <p>2. 課題をとらえ、解決の見通しをもち、考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ながお先生の時間のつかい方について考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時計を動かしたら分かりそうだ。</li> <li>・時計の針は、どれぐらい動くのかな。</li> <li>・数直線に書いて考えることもできそうだよ。</li> <li>・寝た8時は、起きた9時は、午前？午後？</li> <li>・午後8時から午後9時だとしたら、寝ている時間は1時間だね。</li> <li>・午後8時から午前9時だとしたら、13時間だ。</li> <li>・式も立てられるかもしれない。</li> <li>・午後と午前に分けたら、<math>4 + 9 = 13</math>だ。</li> <li>・時計の針が半分回ったら6時間だから、<math>6 + 6 + 1 = 13</math>。</li> <li>・時計の針が1周したら12時間だよ。<math>12 + 1 = 13</math>だね。</li> </ul> <p>○どんな話し合いをしたのか、どんな考えになったのかを、みんなで共有しよう。</p> | <p>※机を付けて4人グループになり、話し合わせる。</p> <p>※話し合ったことや考えたことは、スクールタクトに書き残すことを確認する。</p> <p>☆まなびポケット スクールタクト</p> <p>※模型時計を操作したいという子のために、模型時計も使わせる。</p> <p>※模型時計だけではなく、数直線に表したいという子がいたら、スクールタクトに用意しておいた数直線を配布し、活用させる。</p> <p>※「3けたの数」で既習した「算数の言葉は、式になること」を想起させる。</p> <p>★寝た時刻が8時、起きた時刻が9時という情報をもとに、言葉と図、時計を対応させながら表現し、考えている。</p> <p>※スクールタクトを大型画面に写しながら、子供たちに説明してもらい、全体で共有する。</p> |
| 終末 | <p>3. 学習のまとめをする。</p> <p>○今日の授業を通して、分かったことや感じたことなどを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数直線を使うと、分かりやすくてとても便利だった。</li> <li>・式は分からなかったけれど、数直線で分かった。</li> <li>・考えたことを式にすることができた。</li> </ul>   | <p>※児童の振り返りの言葉から、数直線を活用することによる時間の視覚化や、時刻と時間の表し方のよさについて確認する。</p> <p>★時刻や時間に関心をもち、日常生活で生かそうとしている。</p>  |

授業参観の視点

- ① 具体物やスクールタクト（数直線）、式を活用して、問題解決をしていたか。
- ② 時間の単位に注目し、図などを用いて時刻と時間の求め方を考え、説明していたか。

# 第5学年体育科（保健領域）学習指導案

令和4年7月15日（金）

小金井市立小金井第三小学校

5学年4組 36名

授業者 平木正行 庄司美帆 笠井 哲  
高木響子 小中愛子 川岸由佳

## 1 単元名 「心の健康」(3時間) 光文書院

### 2 単元の目標

- ・心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに、簡単な対処をすることができるようにする。
- ・心の健康について、課題を見つけ、その解決に向けて思考し判断するとともに、それを表現することができるようにする。

### 3 観点別評価規準

| 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度                              |
|---|---|--|
| ① 心は、いろいろな生活経験を通して、年齢に伴って発達することを理解している。                                   | ① 心の健康について、課題を見つけ、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。 | ① 健康・安全の大切さに気づき、心の健康についての学習に進んで取り組もうとしている。 |
| ② 心と体には、密接な関係があることを理解している。  |   |  |
| ③ 不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があることを理解しているとともに、技能を身に付けている。 |   |  |

### 4 単元について

本単元では、心の健康について課題を見つけ、その解決を目指した活動を通して、心は年齢に伴って発達すること、心と体には密接な関係があり、深く影響し合っていることについて理解できるようにする。また、不安や悩みへの対処にはいろいろな方法があることを理解するとともに、不安や悩みを緩和するための対処の方法を実際に行うことができるようにすることを目指している。

### 5 チームの手立て

本チームでは、目指す児童像を「健康の保持増進や運動の楽しさに関心・意欲をもつ児童」と設定した。保健分野から児童像に迫るために、第3時では、小グループによる対話の場面を設定した。友達や教員と意見交流をしたり、ICTのスクールタクトによって共有したりすることで健康の保持増進（不安や悩みへの対処法）への関心・意欲を高めて欲しい。また、小グループの対話では、各グループに教員が入り、ファシリテーター役を行ったり、自らの経験談を語ったりする。それにより、児童が不安や悩みなどへの対処法を知り、選択肢を増やすことができればよいと考えている。

### 6 ICTの活用について

本単元では、スクールタクトを活用し、自分自身と向き合ったり、共同閲覧機能を使用して、友達の意見を知ったりすることができるようにする。また、第3時では、Google Formsによってとったアンケートを資料として提示することで、不安や悩みがあることは自然なことであると安心できるようにする。

## 7 単元の指導計画

| 時  | ねらい  | ○主な学習活動   | 教師の指導・支援<br>※留意点☆ICT  |
|----|--|---|---|
| 1  | 心の発達   |   |   |
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・心は、いろいろな生活経験を通して、年齢に伴って発達することを理解する。</li> <li>・よりよく心を発達させる適切な方法を考えたり、表現したりする</li> <li>・心の発達について関心をもつ。</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○感情、社会性、思考力に関して小さい頃と今の自分とを比べる。</li> <li>○どのようなことを通して心が発達してきたのかを、自分の経験を振り返って、話し合う。</li> <li>○様々な生活経験や学習を通して心が発達していくことを知る。</li> <li>○心がよりよく発達していくために、これからしてみたいことを考え記入する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>※発達に関して、児童間での比較にならないように留意する。</li> <li>※発表に際して、友達の発言を否定したり、からかったりしないように注意を与え、心の発達の仕方や、人との関わりにも個人差があることを理解させる。</li> <li>☆スクールタクト</li> </ul>  |
| 2  | 心と体の関わり  |   |   |
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・心と体の関わりを知り、心と体は深く影響し合っていることを理解する。</li> <li>・心と体の関わりについて、自己の経験と学習したことを関連づけて考えたり、表現したりする。</li> <li>・心と体の関わりについて資料を見たり、生活を振り返ったりする。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○心の状態の変化が、体の状態に影響する場面について考える。</li> <li>○体の状態の変化が、心の状態に影響する場面について考える。</li> <li>○心と体は、どのようにつながっているのかを知る。</li> <li>○心の状態が変化すると体の状態も変化することがあり、体の状態が変化すると心の状態も変化することを知ること。</li> <li>○普段の生活で、心と体が影響し合っていると思うことを考え、記入する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>※不安なときや緊張したときの体調の変化や体調が悪いときの気分の変化などは、個人だけに起こる特異な例ではないことを強調する。</li> <li>不安や悩みによる体の変化に焦点を当て、次時につなげられるようにする。</li> <li>※人によって心と体の関わりによる変化の現れ方が異なることをおさえる。</li> <li>☆スクールタクト</li> </ul> |
| 3  | 不安や悩みなどへの対処  |   |   |
| 本時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・不安や悩みへの対処には、いろいろな方法があることを知り、呼吸法などの対処の仕方をできるようにする。</li> <li>・不安や悩みに対処する様々な方法を考え、学習したことを活用して、適切な方法を選ぶことができるようにする。</li> <li>・不安や悩みの対処方法を考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○アンケート結果をもとに、小学校4～6年生が抱える不安や悩みについて知る。</li> <li>○不安や悩みなどに対処する方法を話し合う。</li> <li>○不安や悩みなどへの対処の仕方には様々な方法があり、適切な方法を見つけて対処することが大切であると知る。</li> <li>○対処法の一つに取り組む。</li> <li>○学習で分かったことを振り返る。</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>☆Google Forms</li> <li>※不安や悩みは誰もが経験することであり、原因も多種多様である。中には他人に言えない悩みを抱えている児童がいることも十分配慮する。</li> <li>☆スクールタクト</li> <li>※不安や悩みは心の発達には大切な過程であることをおさえ、いろいろな対処法があることに気付かせる。</li> </ul>     |

## 8 本時の学習

### (1) 本時のねらい

- ・不安や悩みへの対処にはいろいろな方法があることを知り、呼吸法などの対処の仕方をできるようにする。
- ・不安や悩みに対処する様々な方法を考え、学習したことを活用して、適切な方法を選ぶことができるようにする。
- ・不安や悩みの対処方法を進んで考え、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。

### (2) 展開 (3 / 3)

|     | ○学習活動・予想される児童の反応  | ※留意点 ★評価 ☆ICT   |
|-----|---|---|
| 導入  | ○皆が抱える不安や悩みに関するアンケート（グラフ）を見て、不安や悩みにはどのようなものがあるのかを知る。<br>・勉強について多くの人が悩んでいるんだな。   | ☆Google Forms アンケート（5年4組）グラフ<br>※不安や悩みの内容は無理に発表させない。<br>※不安や悩みがあるのは自分だけでないことや何に不安や悩みを感じるかは人それぞれであることをおさえる。<br>※思春期は心と体が大きく変化する時期であることを確認する。   |
| 展開  | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">不安や悩みなどに対処するには、どんな方法があるか考えよう。</div> ○不安や悩みに対する方法について考える。<br>・好きなことをする。<br>・だれかに相談する。<br>・不安や悩みを解決するために努力する。<br>○小グループになり、対処法について話し合う。<br><br>○不安や悩みなどへの対処法を体験する。 | ☆スクールタクトに自身の考えを書く。<br><br><b>★不安や悩みへの対処法を進んで考え、意欲的に学習に取り組もうとしている。</b><br><br>※話し合いのルール「否定しない」「最後まで聞く」を確認する。<br><b>★不安や悩みへの対処法には、いろいろな方法があることを理解している。</b><br>※自分の不安や悩みに気づき、様々な対処法を行うことは健康のために大切であることを伝える。<br>※養護教諭が対処法の例（呼吸法）を紹介し、音楽教諭によるBGMの中で、皆で取り組む。<br><b>★呼吸法などの対処のしかたを実践できる。</b> |
| まとめ | ○不安や悩みがあるときには、今後どのようにするかを考えて記入する。   | <b>★不安や悩みに対処する様々な方法を考え、学習したことを活用して、適切な方法を選ぼうとしている。</b>  |

#### 授業参観の視点

- ① 学習（小グループでの話し合い・スクールタクトの共同閲覧・呼吸法体験）を通して、様々な対処法を考え、知ろうとする児童の姿・適切な方法を選ぼうとする児童の姿が見られたか。
- ② Google Forms アンケート・スクールタクトを用いた振り返りによって、学んだことを実践しようとする児童の姿が見られたか。

# 第3学年国語科学習指導案

令和4年10月7日(金) 5校時  
 小金井市立小金井第三小学校  
 第3学年5組 31名  
 授業者 平塚 知美

## 1 単元名「修飾語を使って書こう」(4時間)

## 2 単元の目標

- ◎主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係について理解することができる。(知(1)カ)
- 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。(知(1)オ)

## 3 観点別評価規準

| 知識・技能   | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|---|
| ①言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。<br>②主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解している。 | ① 今までの学習を生かして、修飾と被修飾の関係について理解しようとし、積極的に言葉の役割や性質を捉え直そうとしている。 |

## 4 単元について

本単元は、知識及び技能(1)の言葉の特徴や使い方に関する事項に関する内容となる。低学年での「主語と述語」の学習を基礎に、修飾語の役割を知ることによって、「文の意味を正しく捉えられるようになること」、「言いたいことがより正確に、詳しく相手に伝えられるよう、文を整え書いたり話したりできるようになること」の2点をめざす。

## 5 チームの手立て

チームの目指す児童像を「自分の考えをもち表現することを楽しむ児童」と設定した。本単元では、修飾語という用語を知るばかりでなく、修飾語を加えることにより、文が「詳しくなる」「分かりやすくなる」「意味が定まっていく」など、さまざまな変化が起こることによって気付くことが重要である。単元のまとめでは、児童が自分の考えをもち表現することを楽しむことができるよう、児童一人一人が学級の友達に伝えたい内容を決め、それについて説明する修飾語を加えた文章を書く活動を設定する。

## 6 ICTの活用について

国語科の学習では主に「スクールタクト」を活用して、資料の提示、考えの交流などを行っている。本単元では、「スクールタクト」に加え、まなびポケットの「チャンネル」機能を活用する。児童が友達の考えた修飾語に触れ、分かりやすい文を書く際の参考にすることができるようにする。

## 7 小単元の指導計画

| 過程  | ねらい                        | ○主な学習活動   | 教師の指導・支援(☆ICT)   |
|-----|----------------------------|---|--|
| 捉える | 分かりやすい文にするためにどうしたらいいのか考える。 | ○学習のめあてを確認する。<br>○修飾語の役割を確認する。<br>○P.30の課題に取り組み、文の中の修飾・被修飾の関係について押さえる。<br>○これまで教科書に出てきた文を、主語・述語・修飾語に分ける。<br>○学習感想を書く。 | ・主語と述語について2年生で学習したことを振り返らせる。<br>・イラストに教師が要素を付け加えていき、その様子について児童に言葉で表現させる。<br>☆学びポケット「スクールタクト」 |
| 深める | 修飾語を使って、分かりやすい文を書く練習をする。   | ○教科書にある写真の様子を、修飾語を使ってくわしく書く。(P.31 <sup>3</sup> )<br>○学習感想を書く。   | ・前時の振り返りをする。<br>(P.31 <sup>1</sup> )<br>☆学びポケット「チャンネル」                                       |



|          |                               |   |  |
|----------|-------------------------------|---|--|
| まとめる・広げる | 修飾語を使って、伝えたいことを分かりやすく伝える文を書く。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○三小の中で自分が気に入っていたり紹介したかったりする場所や風景の写真をタブレット端末で撮影する。</li> <li>○撮影した写真に、伝えたいことを分かりやすく伝える文章を書き添える。</li> <li>○文章を読み合う。</li> <li>○学習感想を書く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な児童には、主語と述語を確認し、修飾語の例を提示する。</li> <li>☆タブレット端末カメラ機能</li> <li>☆学びポケット「スクールタクト」</li> </ul> |
|----------|-------------------------------|---|--|

## 8 本時の学習

### (1) ねらい

修飾語を使って、分かりやすい文を書く練習をする。

### (2) 展開 (2 / 4)

|                          | ○主な学習活動 ・ 予想される子どもの反応  | ※留意点 ★評価 ☆ICT   |
|--------------------------|--|---|
| 導入                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書 P.31<sup>1</sup>の問題に取り組み、前時までの学習を振り返る。また本時は、1枚の写真の様子について修飾語を使って分かりやすく説明する文を書くことを確認する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>※児童が目的意識や見通しをもって学習に臨めるようにする。</li> <li>★言葉が文中でそれぞれ役割をもっていることや、役割によるまとまりがあることを理解している。(発言)</li> </ul>   |
| 修飾語を使って、分かりやすい文を書く練習をしよう |  |   |
| 展開                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書 P.31<sup>3</sup>の写真を見ながら、様子を説明する修飾語をチャンネルのコメント欄に投稿する。</li> <li>○チャンネルに投稿された修飾語も参考にしながら、写真の様子について修飾語を使って分かりやすく説明する文をノートに書く。</li> <li>○何名かの児童が発表し、主語や述語、修飾と被修飾の関係を示して、理解を深める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>☆まなびポケット「チャンネル」機能を活用する。</li> <li>★修飾語の働きを理解し、修飾語を使って分かりやすい文を書いている。(発言・記述)</li> <li>※どんな修飾語を加えて分かりやすくしたのか説明しながら、発表させるようにする。</li> <li>※友達の文を読み、修飾語によって文章が分かりやすくなる良さを感じられるようにする。</li> </ul> |
| 終末                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習感想を書く。</li> </ul>  |   |

#### 授業参観の視点

まなびポケットの「チャンネル」機能を活用することで、様々な修飾語があることに気づき、分かりやすい文を書く上で参考になっていたか。

# 第6学年体育科学学習指導案

令和4年10月19日(水)  
小金井市立小金井第三小学校  
第6学年3組 40名  
授業者 中澤 卓也

## 1 単元名「器械運動(跳び箱運動)」(6時間)

## 2 単元の目標

|              |   |
|--------------|---|
| 知識及び技能       | 基本的な支持跳び越し技を安定して行うとともに、その発展技を行うことができる。                        |
| 思考力、判断力、表現力等 | 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 |
| 学びに向かう力、人間性等 | 運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができる。        |

## 3 観点別評価規準

| 知識及び技能   | 思考力、判断力、表現力等   | 学びに向かう力、人間性等  |
|--|--|---|
| ①自己の能力に適した繰り返し系や回転系の基本的な技を常に安定して行うことができる。<br>②発展技に取り組み、技を安定して行うことができる。 | ①自己の能力に適した課題・練習方法・練習の場を選んでいる。<br>②タブレットや掲示物、助言等から、課題を見つけ、練習している。<br>③友達と課題解決に向けて、動きのポイントやコツを教え合っている。 | ①すすんで跳び箱に取り組もうとしている。<br>②授業の約束を守り、友達と協力しながら安全に気をつけて学習活動に取り組もうとしている。 |

## 4 運動の特性

### (1) 一般的特性

いろいろな高さや向きの跳び箱をより上手に跳び越したり、新しい跳び越し方に挑戦したりするとき楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

### (2) 児童から見た特性

「できる」「できない」の判断がしやすく、できた喜びが次の技への意欲につながる運動である。また、高さに挑戦することに魅力を感じ、積極的に取り組む児童も多いが、反面、落下等の恐怖を感じ消極的になってしまう児童も見られる運動である。

## 5 単元について

### (1) 単元観

器械運動は、「できる」「できない」がはっきりした運動であることから、全ての児童が技を身に付ける楽しさや喜びを味わうことができるよう、自己の課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、練習の場や段階を工夫したりすることができるようにすることが大切であると、小学校学習指導要領解説体育編に示されている。また、グループの仲間と実際に動きを見合ったり、考えを共有したりしながら、児童が自己の課題を見いだし課題を解決していく学習展開を目指していく。仲間と考えながら課題の解決に向けて取り組む中で、互いを高め合う関係性も築いていく。

(2) 系統観

| 学年     | 第1・2学年  | 第3・4学年   | 小学校5・6年生   |
|--------|---|--|--|
| 領域     | 器械・器具を使ったの運動遊び  | 器械運動   | 器械運動   |
| 内容及び構成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・踏み越し跳び</li> <li>・支持でまたぎ乗り</li> <li>・支持でまたぎ下り</li> <li>・支持で跳び乗り</li> <li>・支持で跳び下り</li> <li>・馬跳び</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・開脚跳び</li> <li>・大きな開脚跳び</li> <li>・かかえ込み跳び</li> <li>・台上前転</li> <li>・大きな台上前転</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した開脚跳び</li> <li>・大きな開脚跳び</li> <li>・かかえ込み跳び</li> <li>・安定した台上前転</li> <li>・大きな台上前転</li> <li>・首はね跳び</li> <li>・頭はね跳び</li> </ul> |

6 チームの手立て

本チームでは、目指す児童像を「健康の保持増進や運動の楽しさに関心・意欲をもつ児童」と設定した。跳び箱運動は怪我が最も多い学習單元であるため、単元の初めに安全のための決まりを全体で共有する。また、アンケート結果から、本学級には跳び箱運動が嫌いな児童が多いが、そのような子供も楽しさを感じ、自己の課題解決に向けて意欲をもつ児童の姿を目指している。そのために、かっこいい跳び方とはどんな跳び方か、上手に跳べない原因は何かなどを児童自身に考えさせることで、関心・意欲をもって取り組むようにさせる。

7 ICTの活用について

- (1) 参考にするための動画を作成して、全体でポイントを確認する。NHK for schoolにあるような動画を作成することで、実感をもって技能の確認ができる。
- (2) 児童が跳び箱を跳ぶ姿を、タブレット端末で動画撮影することで、自分自身の動きを客観的に見て、動きの改善に役立てる。
- (3) 時間差撮影機能（タイムシフト）を使い、自分の動きをその場で確認することで、練習の流れを止めずに改善に活かすことができる。
- (4) 個々の学習の目標や振り返りをタブレット端末に記録することで、友達と共有しやすくする。

8 学習過程

| 時       | 目標                           | 学習内容・学習活動・めあて  | 評価規準（評価方法） |          |                     |
|---------|------------------------------|--|------------|----------|---------------------|
|         |                              |  | 知識・技能      | 思考・判断・表現 | 主体的な態度              |
| 第1時     | 跳び箱運動の行い方を知り、学習の見通しをもつ。      | ○オリエンテーション<br>1 学習内容の確認<br>跳び箱運動の学習の進め方を知ろう。<br>2 準備運動、補強運動（うさぎ跳び、くま歩き、カンガルー跳び、かえるの足打ち、手押し車）<br>3 安全に関する指導、場の準備<br>4 自分の力を知るための試技<br>5 上手な児童の模範を見て、動画撮影し、ポイントを確認<br>6 整理運動、片付け<br>7 振り返り |            |          | （観察）<br>スクールタクトへの記録 |
| 第2時（本時） | 自己の課題を見付け、解決するための練習を考えて取り組む。 | 1 学習内容の確認<br>よりかっこよく開脚跳びをしよう。<br>2 準備運動、補強運動（うさぎ跳び、かえるの足打ち）<br>3 エンジョイタイム<br>4 例示動画の確認、各自のめあての確認<br>5 チャレンジタイム<br>6 整理運動、片付け<br>7 振り返り   |            |          | （観察）<br>スクールタクトへの記録 |

|                                |                                 |   |                                |                              |                              |  |
|--------------------------------|---------------------------------|---|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|--|
| 第3時・第4時                        | 自己の課題を見付け、解決するための練習を考えて取り組む。    | 1 学習内容の確認<br><table border="1" data-bbox="339 143 1137 203"> <tr> <td>台上前転に挑戦しよう。</td> </tr> </table> 2 準備運動、場の準備<br>3 各自のめあての確認、台上前転の模範演技を確認<br>4 エンジョイタイム（感覚づくり）<br>5 チームタイム<br>・仲間と動きを見合い、動きのポイント（助走・踏み切り・空中動作）の中から自分の課題を見付ける。<br>・タブレット等で撮影して動きを確認する。<br>6 自己の課題解決に向けて練習する。<br>7 整理運動、片付け<br>8 振り返り                 | 台上前転に挑戦しよう。                    | (観察) スクー<br>ルタク<br>トへの<br>記録 |                              |  |
| 台上前転に挑戦しよう。                    |                                 |   |                                |                              |                              |  |
| 第5時                            | チームで教え合い、課題解決に向けて練習方法を工夫して取り組む。 | 1 学習内容の確認<br><table border="1" data-bbox="339 611 1137 707"> <tr> <td>自分の課題を解決するためにチームで教え合いながら取り組もう。</td> </tr> </table> 2 準備運動、場の準備<br>3 各自のめあての確認<br>4 エンジョイタイム（感覚づくり）<br>5 チームタイム<br>・仲間と動きを見合い、動きのポイント（助走・踏み切り・空中動作）の中から自分の課題を見付ける。<br>・タブレット等で撮影して動きを確認する。<br>6 自己の課題解決に向けて練習する。<br>7 整理運動、片付け<br>8 振り返り           | 自分の課題を解決するためにチームで教え合いながら取り組もう。 | (観察) スクー<br>ルタク<br>トへの<br>記録 | (観察) スクー<br>ルタク<br>トへの<br>記録 |  |
| 自分の課題を解決するためにチームで教え合いながら取り組もう。 |                                 |   |                                |                              |                              |  |
| 第6時                            | 自己で技を選択し、より大きな跳び越し方や発展技を行う。     | 1 学習内容の確認<br><table border="1" data-bbox="339 1122 1137 1182"> <tr> <td>自分で技を選んで、より高度な技に挑戦しよう。</td> </tr> </table> 2 準備運動、場の準備<br>3 各自のめあての確認、より高度な技の確認<br>4 エンジョイタイム（感覚づくり）<br>5 チームでチャレンジタイム<br>・仲間と動きを見合い、動きのポイント（助走・踏み切り・空中動作）の中から自分の課題を見付ける。<br>・タブレット等で撮影して動きを確認する。<br>6 自己の課題解決に向けて練習する。<br>7 整理運動、片付け<br>8 振り返り | 自分で技を選んで、より高度な技に挑戦しよう。         |                              | (観察) スクー<br>ルタク<br>トへの<br>記録 |  |
| 自分で技を選んで、より高度な技に挑戦しよう。         |                                 |   |                                |                              |                              |  |

## 9 本時の学習(2/6)

### (1) ねらい

自分の課題と目標を確認し、友達と交流して、より美しい跳び方で大きな開脚跳びをする。

### (2) 展開

|    | ○主な学習活動 ・予想される子どもの反応   | ※留意点 ★評価 ☆ICT   |
|----|--|---|
| 導入 | 1 集合、整列、挨拶、健康観察をする。<br><br>2 準備運動、補強運動をする。<br>(膝の屈伸、伸脚、手首足首、首を重点的に。)<br>(補強運動は、うさぎ跳び、かえるの足打ち。) | ※素早く集合、整列、挨拶をする。児童の顔色や様子を確認し、服装を整える。<br>※よりたくさんの運動の時間を確保するため、あらかじめ用具等は準備させておく。<br><br>※補強運動では、腰を高く上げるなど、腕支持感覚や逆さ感覚をつかませる。 |

|        |  |  |
|--------|--|--|
|        | <p>3 エンジョイタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のできる技で跳び箱運動を楽しむ。</li> </ul>  | <p>※自分が楽しくできるレベルの技や低い段で、跳び箱運動の楽しさを感じさせる。</p>   |
| 展<br>開 | <p>4 めあての確認</p>  |  |
|        | <p>よりかっこよく開脚跳びをするために、自分に合った場で練習しよう。</p>  |  |
|        | <p>5 例示動画の確認、自己のめあての確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画を見ながら、ポイントを確認する。</li> <li>・スクールタクトに自己のめあてを入力する。</li> </ul> <p>6 チャレンジタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人組のチームで活動をする。</li> <li>・自分に合った練習をする。</li> </ul> | <p>☆前時に上手に跳べていた児童の動画を見せ、上手に跳ぶためのポイントを全体で確認する。</p> <p>※①助走、②踏み切り、③着手、④空中動作、⑤着地に分けてポイントを確認する。</p> <p>※かっこよく跳ぶポイントを書いた模造紙を掲示しておく。</p> <p>※跳び箱の段数や補助具は、児童の実態に合わせて柔軟に変更する。</p> <p>☆チーム内で、タブレット端末を利用して動画を撮影し、客観的に見て改善に活かす。3人の役割分担を指示しておく。</p> <p>☆時間差で撮影した自分の映像を見ながら、練習を流れさせる。</p> <p>★約束やきまりを守り、友達と助け合って技の練習をしようとしているか。</p> |
| 終<br>末 | <p>7 整理運動、片付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して、安全に、素早く片付ける。</li> </ul> <p>8 振り返りをする。</p>   | <p>※安全に気を付けて、片付け方を指示する。</p> <p>★スクールタクトに今日の振り返りと自己評価をさせる。</p>  |

#### 授業参観の視点

- ① 学習を通して、自分の課題を解決するための練習方法を考えて選び、取り組むことができていたか。
- ② ICT（時間差撮影機能のテレビ、模範演技の動画、タブレット撮影、スクールタクト）の活用は効果的であったか。

# 第4学年社会科学学習指導案

令和4年11月2日(水) 5校時  
小金井市立小金井第三小学校  
第4学年4組 40名  
授業者 奥村 真絵

## 1 小単元名「武蔵野台地をききんから救え～川崎平右衛門の活躍～」(10時間)

### 2 小単元の目標

- 江戸時代の中期、危機に瀕していた武蔵野台地の人々の願いなどに着目して、地域に残る史跡を見たり、写真資料や地図で調べたりして自分の考えをまとめることができる。
- 川崎平右衛門が武蔵野台地で行った具体的な事例を捉え、その働きを考えることを通して、平右衛門は様々な知恵を出し、工夫し努力を重ねたことにより武蔵野台地の人々の困窮を救い、その後の発展に貢献したことを理解できるようにする。
- 学習問題を主体的に追究・解決し、平右衛門の事績と今の小金井桜とを関連付けて考え、地域社会の一員として、玉川上水の自然環境や歴史的環境である小金井桜の今後の在り方について自分なりの考えをもつことができる。

### 3 観点別評価規準

| 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|--|---|
| ①危機に瀕していた武蔵野台地の人々や当時の社会状況、人々の願いなどについて、今に残る痕跡を見たり、写真や資料で調べたりしながら必要な情報を読み取ることができる。<br>②武蔵野台地の人々を困窮から救った平右衛門の様々な取り組みを理解している。 | ①当時の武蔵野台地の状況や人々の願いなどに着目して平右衛門が取り組んだことを考え、表現している。<br>②平右衛門の働きと今の小金井桜を関連付けて考え、地域社会の一員として玉川上水の自然環境や小金井桜という歴史的環境の在り方を自分なりに選択・判断している。 | ①平右衛門の働きについて、予想や学習計画を立てたり、考えたりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。<br>②地域社会の一員として玉川上水の自然環境や小金井桜という歴史的環境の今後の在り方についてすすんで考えることを通して、地域社会への誇りと愛情を養うことができるようにする。 |

### 4 単元について

本小単元は、内容(4)「県内の伝統や文化、先人の働き」について関わる内容である。内容の取扱いでは、開発、教育、医療、文化、産業などの面で地域の発展や技術の開発に尽くした先人の具体的事例の中から、選択して取り上げるとされている。本小単元では、「武蔵野台地の人々を救った川崎平右衛門」を取り上げる。まずは、川崎平右衛門とゆかりの深い玉川上水ができた経緯を扱い、江戸や武蔵野台地の大切な飲料や農業用水として貴重な資源であったことをおさえる。その後、度重なる飢饉に襲われて困窮する武蔵野台地の農民を救うため、平右衛門が様々な知恵を出し、武蔵野台地の新田開発などに取り組んだ。そのおかげで、武蔵野台地での生活が安定し、人々の生活が向上するとともに、武蔵野台地の発展に貢献したことを捉えさせることができる単元構成とした。

### 5 チームの手立て

チームの目指す児童像を「社会的事象を様々な視点から考え、学んだことを自分のこととして捉えられる児童」と設定した。単元の終末では、平右衛門が玉川上水に小金井桜を植えた経緯と現状を踏まえ、玉川上水の自然環境・歴史的環境の在り方という地域社会に見られる課題についての解決策を自分なりに選択・判断するという問題解決的な学習過程「つなぐ」を設定し、自分たちの生活と歴史的な文化財をつなげ、これからも地域社会で生きる一員として、自然環境や歴史的環境をどのように保護活用していくのかを考える機会とする。

### 6 ICTの活用について

本小単元では、「資料提示」の場面でICTをどのように活用できるのかを検討、実践した。資料提示を、タブレット「スクールタクト」を用いて行うことで、児童一人一人がより鮮明に写真資料や映像資料と向き合えると考えた。また、資料の拡大、縮小が意のままにできることから、詳しく見たいときや見返したいときなどに効果が得られると考えた。また、学習で用いた資料をタブレットの「スクールタクト」上で配布しておくことで、児童がいつでも資料を振り返ったり、自分の考えと照らし合わせたりすることができると考えた。

7 小単元の指導計画 (全10時間)

| 過程  | ねらい   | ○主な学習活動<br>・予想される子どもの反応  | ●教師の指導・支援◇資料<br>☆ICTの活用(下線は、特に重点的に活用したもの)  |
|-----|---|--|--|
| つかむ | ①<br>玉川上水がつくられた理由について関心をもつ。                     | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">玉川上水は何のためにつくられたのだろうか。</div> ①既習の水害の学習から、「小金井市のハザードマップ」を提示し、玉川上水は水害の危険が少ないことを知り、その理由を仙川などとの違いから予想させる。<br>・玉川上水はほとんど水害の危険がない。<br>・仙川は曲がっているのに、玉川上水はまっすぐになっている。<br>②玉川上水について教科書P74から読み取り、工事の期間や距離を知り、どうして玉川上水をわざわざつくったのかを考えさせる。<br>・生活に必要なだったから。・飲み水がほしかった。<br>③玉川上水がつくられた理由を資料から読み取る。<br>・人口が急増したことで水不足になった。<br>・江戸は井戸を掘っても塩水しか出ないから。   | ●玉川上水が江戸時代に意図的につくられた上水であることをおさえ、そのつくられた理由を資料から読み取らせる。<br>◇現在の玉川上水の写真<br>◇ <u>小金井市の玉川上水付近ハザードマップ</u> ☆資料提示<br>◇工事の期間を示す文章資料<br>◇玉川上水の水路(地図)<br>◇江戸の人口の変化のグラフ<br>◇当時の江戸の様子(想像図)<br>◇江戸時代の簡単な年表                             |
|     | ②<br>玉川上水ができた後、武蔵野台地の様子がどのように変わったのかを調べる         | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">玉川上水ができる前と後を比べよう。</div> ④江戸時代より前の武蔵野台地の様子と玉川上水ができた後の様子を比べて違いを読み取る。<br>・玉川上水ができる前は原っぱで人が住んでいなかったみたいだ。<br>・玉川上水ができて、新田ができて、人が住み始めた、村が増えている。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">玉川上水を開発したことで、江戸の人々の飲料水が確保され、武蔵野台地には村ができた。</div>  | ●玉川上水ができた前後を比較させ、玉川上水ができたことで安定してきれいな水を得ることができたこと、また、武蔵野台地に村や新田が増えたことをおさえる。<br>◇ <u>武蔵野図屏風(絵)</u> ☆資料提示<br>◇江戸時代の分水(地図)<br>◇新田の開発(地図)   |
|     | ③<br>川崎平右衛門の事績について関心を持ち、学習問題を見出し、予想し、解決の見通しをもつ。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">武蔵野台地の様子を知り、学習問題をたてよう。</div> ④玉川上水ができて80年後に起きた、全国の大飢饉や武蔵野台地でのダメージを知り、村人の願いについて考える。<br>・武蔵野の新田でほとんど作物が取れなかったなんて大変だろうな。少しでも、食料がほしいと思っていたんじゃないかな。<br>⑤平右衛門への感謝の気持ちを伝える供養塔や謝恩塔が武蔵野台地の各地にあるのは、武蔵野台地をききんから救ったからだということを知り、学習問題を考える。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>学習問題</b><br/>             川崎平右衛門は、武蔵野台地の人々を救うためにどのようなことをしたのだろうか。           </div> ⑥学習問題の予想し、学習計画を立てる。<br>・ききんになっても大丈夫なように、育てやすい作物を植えたり、蓄えたりしたのかな。<br>・幕府や他の地域に食べ物がほしいとお願いした。<br>・火山灰やウンカの対策を考えたのかな。 | ◇江戸時代の簡単な年表<br>◇飢饉の様子(絵)・文章資料<br>◇川崎平右衛門の肖像画<br>●児童の疑問の中心が川崎平右衛門の業績へと向かうよう供養塔や感謝塔の存在を出し、様々な地域で感謝されていたことに気付かせる。<br>◇ <u>川崎平右衛門に関する供養塔や謝恩塔(小金井市・国分寺・埼玉県鶴ヶ島市・岐阜県穂積町)の写真資料</u> ☆資料提示<br>●学習問題から当時の村人の願いについて再度考えさせ、学習計画につなげる。 |

|         |  |   |   |
|---------|--|---|---|
| 調べる     | <p>④ ⑤ ⑥<br/>平右衛門が、困窮していた武蔵野台地の復興に尽力していたことを調べる。</p>                      | <p>武蔵野台地の人々を救うために平右衛門が行った業績を調べよう。</p> <p>⑦平右衛門が行った事績の中で自分が最も大切だと思う解決策について調べ、班で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●村々を回り、すぐに対策をする <ul style="list-style-type: none"> <li>・陣屋をつくり、農家一軒一軒を回り、苦しんでいる様子を調べたんだ。</li> </ul> </li> <li>●安定した食料確保に関する対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・御救米を配った。（小金井橋で困っている農民に御救米を配り、幕府からも御救金が渡されたみたい。</li> <li>・土地に合う作物を植え、ひえ倉に保管し、飢饉に備えていたんだ。</li> <li>・御栗林を植えて新田開発をし、豊かではない土地でも育てやすい栗を植えて幕府に献上して認められた。</li> <li>・今でも栗がつく名前が小金井市の色々な場所に残っているんだ。</li> </ul> </li> <li>●安定した仕事に関する対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・用水路などをつくり住みやすく、働きに応じて５段階評価による米穀日払い制度を作ったんだ。</li> <li>・農民を戻そうとして立ち帰り料を与えて、出ていった農民を呼び戻したんだ。村に活気が戻ったと書いてある。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●平右衛門の事績の中で大切だと思うものを選んで調べさせる。その後、違う内容を調べた児童同士で共有させる。</li> <li>●資料は主にタブレットで配布する。紙でも印刷し班に配り、自分で見やすい方を選んで追究活動ができるようにする。</li> </ul> <p>☆適宜タブレットでの検索を許可する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇陣屋についての絵と文章資料</li> <li>◇陣屋跡の写真資料</li> <li>◇御救米についての文章資料</li> <li>◇小金井橋の写真資料</li> <li>◇土地に合う農作物・ひえ倉の文章・写真資料</li> <li>◇御栗林について（文章・写真資料）</li> <li>◇5つの木札（文章資料）</li> <li>◇立ち帰り料（文章資料）</li> </ul> |
|         | <p>⑦<br/>小金井桜について調べ、桜を植栽することによって、地域がどのように変わったのかを調べ、地域の復興に寄与したことを考える。</p> | <p>小金井桜と平右衛門のつながりを調べよう。</p> <p>⑧小金井市にとって「桜」がどのような役割かを想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の市章になっている。</li> <li>・マンホールカードも小金井市は桜だったよ。</li> </ul> <p>⑨平右衛門が桜を植えたことによって、地域にどのような良いことがあったのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳川吉宗の指示で桜を植えていたんだ。</li> <li>・桜が植えられたことで小金井市が後から観光客が集まる場所になったみたいだ。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「桜」が小金井市にとって昔からシンボルとなっていたことを知り、今でも様々な場所に使われていることから自分たちの生きる「今」が「昔」とつながっていることを意識させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇小金井市の桜に関する写真・市章・マンホールカード</li> <li>◇<u>小金井桜の変遷について写真・文章資料</u>☆資料提示（紙&amp;ICT）</li> </ul>   |
| まとめる    | <p>⑧・⑨（見学）<br/>平右衛門が中心となり、武蔵野台地の人々が、飢饉を乗り越えていけるような仕組みがつけられたことをまとめる。</p>  | <p>学習問題のまとめをして、平右衛門に手紙を書く</p> <p>⑩学習問題のまとめをする。</p> <p>学習問題のまとめ<br/>平右衛門が知恵を働かせて様々な事績をして武蔵野台地の人々を救ったことにより、村が復興して生活が取り戻された。今でも小金井桜の伝統を引き継ぎ、小金井公園が桜の名所になっていたり、桜が小金井市のシンボルツリーになっていたりする。</p> <p>⑪平右衛門に手紙を書く。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●既習を振り返って学習問題のまとめを書くよう促す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇今までの学習した資料</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●（平右衛門・武蔵野台地・小金井桜）などをキーワードにまとめを書かせる。</li> <li>●平右衛門に今を生きる「自分」から手紙を書く。</li> <li>●社会科見学として小金井桜周辺の様子を見学・調査に行く。</li> </ul>   |
| つなぐ（本時） | <p>⑩<br/>「小金井桜の保全」か「緑地帯の保全」のどちらを優先するのかと</p>                              | <p>⑫小金井橋から写した玉川上水の上流の写真（雑木が生い茂る緑地帯）と下流の写真（小金井桜のみ残した土手）を比較しながら、気付いたことを出し合う。</p> <p>⑬小金井桜を残すためには、雑木の伐採が必要なことや、玉川上水の緑地帯が生き物たちにとっては貴重な自然環境になっていることを知る。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇<u>玉川上水の小金井市側と小平市側の写真資料</u>☆資料提示</li> <li>◇小金井桜でお花見をしている写真資料</li> <li>◇玉川上水で撮影した生き物の写真資料</li> <li>●自分の名札を黒板の線分図に位</li> </ul>  |



|                               |   |   |
|-------------------------------|---|---|
| いう地域社会に見られる課題について、自分なりの考えをもつ。 | ・玉川上水に野生のタヌキがいた。野鳥やクワガタなどの昆虫も多く生息している。<br>⑭自分の考えを発表する。質問を受けたり、友達の意見を聞いたりしながら考えを深める。 | 置付けさせ、立場をはっきりさせて話し合いに参加させる。<br>●子供なりに具体的な根拠（理由）を考えることができるようにする。 |
|-------------------------------|---|---|

## 8 本時の学習（10／10時間）

### (1) ねらい

「小金井桜を守る」と「緑を残す」のどちらを優先するのかという、「地域に見られる課題」について、地域社会の一員として自分なりの考えをもつ。

### (2) 展開

|    | ○主な学習活動<br>・予想される児童の反応   | ※留意点 ◇資料<br>★評価 ☆ICT  |
|----|--|---|
| 導入 | <b>1 前時までの学習をふり返る。</b><br>①「小金井桜」について振り返る。<br>・川崎平右衛門が幕府の命で植えた。<br>・小金井市が桜で有名になり、今でも小金井市には「桜」に関するものが多く残っている。<br>②2枚の写真（A小金井氏側の玉川上水の様子B小平市側の玉川上水の様子）を比較し、玉川上水の様子の違いを読み取る。<br>・Aは、玉川上水が流れている様子が見えるが、Bは見えない。<br>・Aは、木が切られていて、殺風景。桜が咲いている。<br>Bは、緑が多い。   | ※既習のノートや模造紙などから学習をふり返れるようにする。<br>◇川崎平右衛門肖像画<br>※2枚とも玉川上水の様子を写したものであることを伝える。<br>☆◇ <u>小金井市側と、小平市側の玉川上水の様子の写真資料</u>   |
| 展開 | <b>2 今の「小金井桜」に起きている課題について知る。</b><br>③小金井桜を残すためには、雑木の伐採が必要なことや、玉川上水の緑地帯が様々な生き物たちにとっては貴重な自然環境になっていることを知る。<br>・小金井桜を守るためには、日当たりを考えてケヤキなどを切らないといけないんだ。<br>・生き物がいるのに、緑を切るのは嫌だ。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">             これからの玉川上水について<br/>             「小金井桜を守る」か「緑を残す」のどちらがよいと思うか考えよう！           </div> ④「小金井桜を守る」と「緑を残す」と選択・判断する内容を2つに整理し、自分はどちらの立場に近いのかを考え、線分図に名札を位置付ける。<br>・生き物の命が大切だから緑は残すべきだ。<br>・小金井桜を守るためには、雑木を切らないといけない。平右衛門さんの桜を残したい。<br>⑤友達の意見を聞きながら、考えを深め、再度名札を位置付ける。<br>（変更の場合のみ） | ◇「小金井桜を守る」と「緑を残す」についてインタビューした内容<br>◇昔の小金井桜で花見をしている様子<br>◇玉川上水で撮影したタヌキなどの生き物の写真資料<br>●討論やディベートではないので、考えを変えたり、どちらにするか迷ったりすることを大切にす。<br>★ <b>主</b> - ②地域社会の一員として玉川上水の自然環境や小金井桜という歴史的環境の今後の在り方についてすすんで考えている。（ノート） |
| 終末 | <b>3 学習をふり返り、学習感想を書く。</b><br>⑥学習感想を書く。   | ◇未来の玉川上水の絵資料<br>※どちらが正解、不正解などではなく、どちらも「正解」であることを確認し、これからの「玉川上水」に関心をもち続けることの大切さを伝える。   |

#### 授業参観の視点

##### ①資料提示場面でのICTの活用について

導入時の2枚の資料提示は、本時の「玉川上水の小金井桜の様子の違い」について興味をもち、「小金井桜を守る」か「緑を残す」のどちらかが大切かを選ぶ活動に、効果的であったか。

##### ②社会科の特性について

地域社会にみられる課題について考える活動を通して、「小金井桜を守る」か「緑を残す」かを自分の身近で起きていることとして捉え、どちらが良いのかを自分なりに考えることができていたか。

# 第4学年国語科学習指導案

令和4年11月24日(木)  
小金井市立小金井第三小学校  
4学年2組 39名  
授業者 大島 絢子

1 単元名 気持ちの変化を読み、考えたことを表現しよう(12時間)  
「ごんぎつね」 新美南吉(光村図書 4年・下)

## 2 単元の目標

言葉に着目して人物の気持ちの変化を読み、考えたことを表現する活動を通して、文章をより深く理解することができる。

## 3 観点別評価規準

| 知識・技能                                     | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|---|--|--|
| ① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。(1)オ | ① 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。<br>② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。<br>③ 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 | ① 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、想像したことを積極的に表現したり、進んで友達の考えを聞こうとしたりしている。 |

## 4 単元について

本教材は、登場人物の気持ちが、豊かな情景描写によって表現されている。それぞれの場面ごとの登場人物の気持ちを想像するにとどまらず、物語全体を通じて複数の叙述を結び付けることで、ごんの気持ちの変化や、ごんと兵十の気持ちのすれ違いを読み味わわせたい。また、ごんの一方的な共感や、償いという行為の底にある“認められたい”という思いなど、人間の根底にある感情に触れることで、文学作品の奥深さを味わい、今後の人間理解や読書活動につなげたい。

## 5 チームの手立て

チームの目指す児童像を「言葉に着目し、文章の深い意味を考えられる児童」「学んだことを自身の読書活動につなげられる児童」とし、以下の手立てを考えた。

### (1) 繰り返し音読を行う

授業の導入で、その日に学習する場面を音読させるだけでなく、学習の途中やまとめでも、重要と思われる言葉や文章を音読させ、児童が言葉に着目して人物の気持ちやその変化を考えられるようにする。

(2) 演劇的手法を取り入れる

「ロールプレイ」や「なりきり日記」などの演劇的手法を取り入れ、登場人物の立場になってみて考えることにより、人物の気持ちの変化について理解を深められるようにする。

- ・ロールプレイ…役になって、動きやセリフを伴って演じる。
- ・なりきり日記…役の状態ですべて日記を書く。

(3) 読みの視点を提示する

「会話から考える」「情景から考える」など、人物の気持ちやその変化を読み取る上で重要な視点を提示することで、読むのが苦手な児童も自力で読み深めることができるようにし、自身の読書活動につなげられるようにする。

6 ICTの活用について

以下の場面でICTを活用する。

○物語の時代の暮らしについて調べ、まとめる <児童が活用、情報収集>

☆「ごんぎつねものしり図鑑」「スクールタクト」

○資料や文章を提示する <教師が活用、理解の促進>

☆デジタル教科書

○着目させたい言葉を提示する <教師が活用、思考の促進>

☆デジタル教科書

○考えたことを表現し、共有する <児童が活用、交流>

☆「スクールタクト」

7 単元の指導計画

| 過程  | ねらい                          | ○主な学習活動                                  | 教師の指導・支援(☆ICT)  |
|-----|------------------------------|--|---|
| 捉える | ①範読を聞き、初発の感想から読み深めたい「問い」をもつ。 | ○範読を聞き、初発の感想をもつ。<br>○みんなで読み深めたい「問い」を考える。 | ・題名から物語を想像させ、物語への興味・関心を膨らませる。<br>・児童が自ら「問い」を考えることで、主体的に読もうとする態度を育む。<br>☆デジタル教科書<br>☆「スクールタクト」 |
|     | ②語句の意味や物語の時代の暮らしについて知る。      | ○国語辞典やWebサイトで、語句の意味や物語の時代の暮らしについて調べる。    | ・調べた語句や、当時使われていた道具などについてまとめさせる。<br>☆「ごんぎつねものしり図鑑」<br>☆「スクールタクト」                               |
| 深める | ②物語の設定を確かめ、ごんの人物像を捉える。       | ○物語の設定を確かめ、ごんがどんなきつねかを話し合う。              | ・ごんの境遇から、いたづらをするごんの気持ちを考えさせる。   |

|          |   |  |   |
|----------|---|--|---|
|          | ④第1場面を読み、叙述を基に、いたずらをするごんの気持ちと、それに対する兵十の気持ちを想像することができる。  | ○登場人物の会話や行動、情景などから想像したことをワークシートに書き込む。<br>○「ロールプレイ」などを通して、気付いたことについて、叙述を確かめながら話し合う。 | ・「会話」や「行動」、「情景」に着目できるよう、読みの視点を提示する。<br>・デジタル教科書の「マイ黒板」機能を使い、叙述と、そこから読み取れるごんの気持ちを整理する。                   |
|          | ⑤第2場面を読み、叙述を基に、兵十の母の死を知ったごんの気持ちを想像することができる。             | ○学習を通して分かったことを基に、「なりきり日記」を書く。  | ・必要に応じて、前の叙述に戻るなど、場面と場面を結び付けたり比べたりして、登場人物の気持ちの変化に気付けるようにする。   |
|          | ⑥第3場面を読み、叙述を基に、兵十のうちへ栗や松茸を持っていくごんの気持ちを想像することができる。       | ○書いた日記を交流し、考えを深める。   | ☆デジタル教科書<br>☆「スクールタクト」  |
|          | ⑦第4場面を読み、叙述を基に、兵十と加助の後をつけるごんの気持ちを想像することができる。            |  |   |
|          | ⑧第5場面を読み、叙述を基に、兵十と加助の会話を聞いた後のごんの気持ちを想像することができる。<br>(本時) |  |   |
|          | ⑨第6場面を読み、叙述を基に、ごんを撃った後の兵十の気持ちを想像することができる。               |  |   |
|          | ⑩ごんと兵十の気持ちの変化を捉える。                                      | ○ごんと兵十の気持ちの変化についてまとめ、考えたことを話し合う。   | ・これまでに読み取った内容を黒板にまとめ、ごんと兵十の気持ちの変化に気付けるようにする。<br>☆デジタル教科書  |
| まとめる・広げる | ⑪読んで分かったことなどを基に、物語や登場人物について自分の考えをもつ。                    | ○詳しく読んで分かったことなどを基に、物語や登場人物についての考えをまとめる。  | ・ワークシートや「なりきり日記」、教科書の手引きなどを参考にまとめてさせる。<br>☆「スクールタクト」  |
|          | ⑫友達の発表を聞き、互いの考え方や感じ方の違いに気付く。                            | ○考えたことをグループ内で発表し、さらに考えを深めたことについて、テーマを決めて話し合う。<br>○学習を振り返る。                         | ・文章のどの表現からそう考えたのかも言うように指導する。<br>・友達の発表を聞いて考えが深まったことや、単元全体を通して身に付いたこと、自己の学習の進め方について振り返らせる。<br>☆「スクールタクト」 |

## 8 本時の学習

### (1) ねらい

第5場面を読み、叙述を基に、兵十と加助の会話を聞いた後のごんの気持ちを想像することができる。

### (2) 展開 (8 / 12)

|    | ○主な学習活動 ・ 予想される子供の反応  | ※留意点 ★評価 ☆ICT  |
|----|---|--|
| 導入 | <p>○前時の学習を想起する。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">兵十と加助の会話を聞いた後のごんの気持ちを考えよう</div>   |  |
| 展開 | <p>○音読をする。</p> <p>○ごんの気持ちが表れている言葉を見つけてワークシートに書き込む。</p> <p>○考えたことを発表し、全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お念仏がすむまで」とあるから、ごんはそれだけ2人の話の続きを聞いたかったんだと思う。</li> <li>・「引き合わないなあ。」と言っているので、ごんは兵十に、本当は自分がくりや松たけを持っていつていることに気付いてほしいんだと思う。</li> </ul> <p>○兵十と加助の会話を代表児童がロールプレイをし、ごんがどんな気持ちで聞いていたか、ごんになりきって考える。</p> <p>○その明るく日のごんの行動を確かめ、「なりきり日記」を書く。</p> <p>○日記を交流する。</p> | <p>※「会話」や「行動」に着目できるよう、読みの視点を確認する。</p> <p>※デジタル教科書の「マイ黒板」機能を使い、叙述と、そこから読み取れるごんの気持ちを整理する。</p> <p>☆デジタル教科書</p> <p>☆スクールタクト</p> <p>※これまでに読み取ったことと結び付けながらごんの気持ちを考えるよう、助言する。</p> <p>※共同閲覧機能を用いて、互いの考えを見られるようにする。</p> <p>※償いという行為の中に、認められたい、兵十と心を通わせたいという思いが生まれていることに気付けるようにする。</p> |
| 終末 | <p>○学習のまとめをする。</p>  | <p>★学習を通して理解したことに基づいて、ごんの気持ちを書いている。</p>  |

#### 授業参観の視点

- ① デジタル教科書を活用し、重要な言葉を提示することで、児童が思考し、文章をより深く理解することができていたか。
- ② スクールタクトを活用し、児童が交流を通して考えを深めることができていたか。

# 第5学年算数学習指導案

令和4年12月12日(月) 5校時  
 小金井市立小金井第三小学校  
 5学年3組 35名  
 授業者 立花 黎

1 単元名 「比べ方を考えよう(1)」(東京書籍) 単位量あたりの大きさ(10時間)

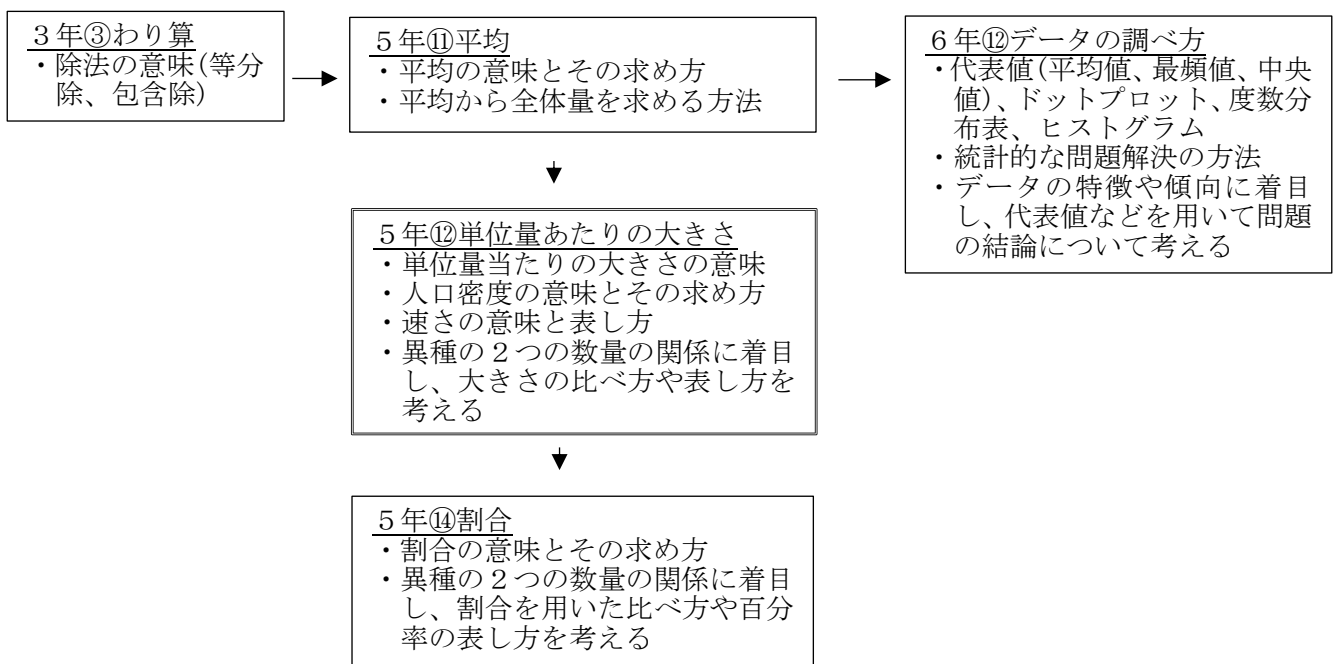
## 2 単元の目標

異種の2量の割合としてとらえられる数量について、速さなど単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解し、単位量あたりの大きさを用いた比べ方や表し方について図や式を用いて考える力を養うとともに、単位量あたりの大きさの意味や表し方を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用したりする態度を養う。

## 3 観点別評価規準

| 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |
|---|---|--|
| 異種の2量の割合としてとらえられる数量について、速さなど単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解し、速さや単位量あたりの大きさを求めたり、比べたりできる。 | 異種の2量の割合としてとらえられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を図や式などを用いて考え表現している。 | 速さなど単位量あたりの大きさの意味及び表し方を、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。 |

## 4 本単元の学習の関連と発展



5 指導計画(1/10)

| 時                 | 目標   | 学習活動  | おもな評価規準   |
|-------------------|--|---|---|
| 1 こみぐあい           |  |   |   |
| ①<br>本時           | (プロローグ)<br><br>○面積、人数が異なる場合の混み具合の比べ方を理解し、比べることができる。      | p. 28のイラストを見て、㊶と㊷では本数が、㊸と㊹では面積がそろっているため値段や混み具合を比較できることを話し合い、単位量あたりの大きさの比べ方を考えるという単元の課題を設定する。<br><br>●面積と人数が違う3つの部屋の混み具合の比べ方を考える。<br>●AとB、BとCを比べ、どちらかがそろっていると比べられることをおさえる。<br>●AとCの比較を通して、人数か面積のどちらかをそろえればよいことを考える。<br>●AとCの比べ方を数直線の図を使って確認する。 | <b>知・技</b> 単位量あたりの大きさをういて比べることの意味を理解し、混み具合を比べることができる。<br><b>思・判・表</b> 混み具合の比べ方を、面積と人数の関係に着目して図や式を用いて考え、説明している。        |
| ②                 |  | ●A、C、Dの比較を行う。調べる数が多くても、混み具合を一度に比べやすい方法を考える。<br>●面積をそろえて1㎡あたりの人数で比べたり、人数をそろえて1人あたりの面積で比べたりするとよいことをまとめる。<br>●前者の方が分かりやすいことをおさえる。  | <b>態度</b> 混み具合は2量の割合としてとらえられる量であることに気づき、図を使って、面積、人数が異なる場合の混み具合の比べ方を考えようとしている。   |
| 2 いろいろな単位量あたりの大きさ |  |   |   |
| ③                 | ○「人口密度」の意味とその求め方を理解する                                    | ●北海道と沖縄県の人の混み具合を比べる。<br>●「人口密度」を知り、人口密度を求める。  | <b>知・技</b> 人口密度の意味を理解し、人口密度を求めることができる。<br><b>思・判・表</b> 人口の混み具合の比べ方を、面積と人数の関係に着目して考え、説明している。                           |
| ④                 | ○単位量あたりの大きさをういて、問題を解決する。                                 | ●米のとれ具合を、単位量あたりの大きさをういて調べる。   | <b>知・技</b> 単位量あたりの大きさをういて、2つの資料を比べることができる。  |
| 3 速さ⑤⑥⑦⑧          |  |   |   |
| ⑤                 | ○速さは単位量あたりの大きさの考えを用いて表せることを図や式を用いて考え、説明することができる。         | ●p. 34を見て、速さを決めるために必要な量について考える。<br>●走った距離、時間が異なる人の速さの比べ方を考える。<br>●時間をそろえて1秒間あたりの距離で比べたり、距離をそろえて1mあたりの時間で比べたりすればよいことを数直線の図を使って考え、まとめる。<br>●混み具合と速さの比べ方や表し方について、単位量あたりの大きさを使っていることを統合的にとらえる。  | <b>思・判・表</b> 単位量あたりの大きさの考え方を基に、速さの比べ方を図や式を用いて考え、説明している。<br><b>態度</b> 速さの比べ方を、時間と距離の2量を基に、単位量あたりの大きさの考え方をういて考えようとしている。 |
| ⑥                 | ○速さを求める公式を理解し、それを適用して速さを求めることができる。<br>○時速、分速、秒速の意味を理解する。 | ●新幹線のはやぶさ号とかがやき号の速さを比べる。<br>●速さを求める公式を考える。<br>●「時速」「分速」「秒速」の意味を知り、公式を用いて速さを求める。   | <b>知・技</b> 速さの表し方を基に、速さを求める公式をつくり、速さを求めることができる。<br><b>知・技</b> 時速、分速、秒速の意味を理解し、時                                       |

|       |   |   |  |
|-------|---|---|--|
|       |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「ますりん通信」を読み、「毎時」「毎分」「毎秒」の意味を知る。</li> </ul>  | 速、分速、秒速を求めることができる。<br><u>思・判・表</u> 速さを求めるときに使う2量に着目し、速さを求める公式を表すことを考え、説明している。  |
| ⑦     | ○道のりを求める公式を理解し、それを適用して道のりを求めることができる。    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ツバメの速さと時間から道のりの求め方を考える。</li> <li>●道のりを求める公式をまとめ、公式を用いて道のりを求める。</li> </ul>   | <u>知・技</u> 速さを求める公式を用いて、速さと時間から道のりを求めることができる。<br><u>思・判・表</u> 速さを求める公式を基にして、道のりを求める公式を図や式を用いて考え、説明している。                            |
| ⑧     | ○速さと道のりから時間を求める方法について考え、説明することができる。     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●台風の速さと道のりから時間の求め方を考える。</li> <li>●かかる時間を□時間として式に表し、時間を求める。</li> <li>●速さ、道のり、時間の関係を振り返り、それぞれの求め方を統合的にとらえる。</li> </ul> | <u>知・技</u> 道のりを求める公式を用いて、速さと道のりから時間を求めることができる。<br><u>思・判・表</u> 道のりを求める公式を基にして、時間の求め方を図や式を用いて考え、説明している。                             |
| 4 まとめ |   |   |  |
| ⑨     | ○単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ倫理的に考察し、問題を解決する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●身の回りから単位量あたりの考えを使っている場面を探す。</li> <li>●雷の音が伝わる速さについての問題を、単位量あたりの考えを活用して解決する。</li> </ul>                              | <u>思・判・表</u> 学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。<br><u>態度</u> 学習内容を生活に生かそうとしている。  |
| ⑩     | ○学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「たしかめよう」に取り組む。</li> <li>●「つないでいこう算数の目」に取り組む。</li> </ul>   | <u>知・技</u> 基本的な問題を解決することができる。<br><u>思・判・表</u> 数学的な着眼点と対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。<br><u>態度</u> 単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。 |

## 6 指導観

本時では、単位量当たりの大きさをを用いて混み具合の比較を行う。移動教室で過ごした部屋の混み具合を取り上げ、面積と人数という異種の2量について、一方の単位量に対する他方の量の大小によって比較する場面を扱う。ここでの「1人当たりどれだけの面積があるか」「畳一枚当たり何人いるか」といった考え方には、比例や平均の考え方が働いている。混み具合を考える際には、人がかたまっていることなく、均して考えることを前提としている。

導入では、まず一方の量が等しい場合について考える。この場合は他方の量の大小で比較すればよいことをおさえた上で、2量がどちらも違う場合にはどうすればよいかという問いにつなげ、単元の



めあてを設定する。

単位量当たりの大きさを用いて比較するときには、2つの数量の間に比例関係があるという前提がある。これをもとに2量の関係を数直線に表し、どちらか一方の量をそろえれば、混み具合を比べられることに気付かせる。

## 7 チームの手立て

チームとして、多様な考えから本質的な考えを引き出すための手立てを考えた。児童が多様な考えを出す中で、どの比べ方が課題の解決に効果的なのか判断したり、選択したりできるように「異種の2量を比べるときに何に揃えると比べやすいか」という場面に応じた言葉かけをしていく。多様な考え方が出た後に「よりよい比べ方は？」という問いを投げかけ、思考する力を身に付けさせる。

## 8 ICTの活用について

「スクールタクト」を活用して、写真の提示をして問題の把握がしやすいようにする。また、混み具合を比較するとき、2量がどちらも違う場合にはどうすればよいかという問いに対して児童が考えた方法を、「スクールタクト」内のチャット機能を使って式や図などを投稿することによって、全員の思考過程を共有する。全体で取り上げることのなかった考えも、チャット機能上に残すことでそれぞれの友達の考え方の価値を認めていくことに役立たせる。

## 9 本時の学習（1／10）

### （1）ねらい

面積、人数が異なる場合の混み具合の比べ方を理解し、比べることができる。

### （2）展開

|        | 学習活動 ○主な発問や指示 ・予想される子供の反応   | ※留意点 ★評価 ☆ICT   |
|--------|---|---|
| 導<br>入 | 1 ㊲、㊳の水の絵を見て、どちらがお買い得か考える。<br>○どちらがお買い得でしょう。<br>・水の量が同じだから㊳の方がお買い得だ。<br>2 ウ、エの部屋の写真を見て、どちらが混んでいるかを考える<br>○どちらが混んでいるでしょう。<br>・面積が同じだから、人数の多い㊴の方が混んでいるよ。  | ※水の量が同じなので、値段の安い㊳の方がお買い得だということをおさえる。<br>※面積が同じだから人数で混み具合を比べることができることを確認する。広さが同じで、㊴の方が人数が多いという根拠を基に混み具合を表現させる。 |
| 展<br>開 | 3 問題を把握する。<br>○A、B、Cのうさぎ小屋で、どれが混んでいるか調べましょう。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             どれが混んでいるか考えよう。           </div> 4 混み具合の比べ方を考える。 | ※混み具合は、小屋の面積と匹数に関係がありそうという意見を基に面積、匹数の情報を提示する。   |

|           |   |   |
|-----------|---|---|
|           | <p>○3つの小屋の混み具合を調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AとBの面積は同じだからAの方が混んでいる。</li> <li>・BとCはうさぎの数が一緒だから面積の狭いCの方が混んでいるね。</li> <li>・AとCは面積もうさぎの数もちがうね。</li> <li>・どちらかがそろっていれば比べられそう。</li> </ul> <p>5 AとCの混み具合の比べ方を説明する。</p> <p>○面積もうさぎの数も違うAとCでは、どちらが混んでいるでしょう。自分の考えがわかるように式にしてチャットに投稿しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aは <math>30 \div 6 = 5</math> <math>9 \times 5</math></li> <li>・Cは <math>30 \div 5 = 6</math> <math>8 \times 6</math></li> <li>・Aは <math>9 \div 6</math> Cは <math>8 \div 5</math> ・Aは <math>6 \div 9</math> Cは <math>5 \div 8</math></li> </ul> <p>○投稿された式について説明してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面積を6と5の公倍数にそろえている。</li> <li>・1㎡あたりのうさぎの数で比べている。</li> <li>・1匹あたりの面積で比べている。</li> </ul> <p>○どちらが混んでいると言えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Cが混んでいる。</li> </ul> | <p>※2量の関係を数直線に表し、どのような考え方を使得って比べたのかを言葉で表させる。</p> <p>★混み具合は2量の割合としてとらえられる量であることに気付き、図を使得って面積、匹数が異なる場合の混み具合の比べ方を考えようとしている。</p> <p>☆スクールタクト内のチャット機能を活用し、考えた式を友達と共有する。</p> <p>★混み具合の比べ方を、面積と匹数の関係に着目して図や式を用いて考え、説明している。</p> |
| <p>終末</p> | <p>6 学習のまとめをする。</p> <p>○今日の学習を通して、分かったことや感じたことなどを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらか一方をそろえれば比べられることが分かった。</li> </ul>  | <p>※公倍数や1当たりの考え方をを用いる考え方を統合して、どちらか一方の量をそろえれば比べられることをおさえる。</p>   |

授業参観の視点

- ・混み具合の比べ方を考えられていたか。
- ・様々な考え方を、チャットを通して発信したり、受け止めたりしていたか。